

令和3年度

## 松戸市地域環境調査報告書



オナガ  
小松調査員撮影



オオジュリン  
仲真調査員撮影

松戸市 環境部 環境政策課

## はじめに

野鳥は自然のバロメーターともよばれ、自然の中で、他の生き物とも様々な関わりをもって生活している生き物のひとつです。人間もまたこの自然のしくみに深く関係し、自然の恵みを受けながら生活をしています。

松戸市では「松戸市環境計画」（平成10年4月策定）のなかで『めざすまちの姿』として、「①人と生きものが共存しているまち、②健康的な日々を過ごすための環境が整ったまち、③地球の環境にやさしいまち」を掲げています。

多くの野鳥を育めるような環境を守っていくことは、私たちにとって『健康的な日々を送れる、地球環境にやさしい、住みやすいまち』（松戸市環境計画に掲げた「めざすまちの姿」）となるための指標のひとつになります。

上記の『めざすまちの姿』を実現させるため、平成11年度から「地域の人達に住まい周辺の環境状況を自ら調査する機会と、地域住民が同じ目標をもって地域独自の環境作りを始めるきっかけを提供する」ための『生きもの調査』事業が実施されました。

『生きもの調査』では野鳥のほかに、蝶やトンボ、セミ、バッタなどの生息状況も調査を5年間実施しました。

平成17年度からは、調査内容の一部を見直し、対象を野鳥に絞った『地域環境調査』を平成21年度までの5年間実施しました。また、平成23年度から環境度の指標を変更しました。

また、平成27年度からは、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成16年法律第78号）第2条第1項に定める特定外来生物（以下「特定外来生物」という。）の他、調査員が興味を持った野生の生きもの（以下「その他の生きもの」という。）についても報告いただく体制としました。

『地域環境調査』事業は、調査員による調査結果を市のホームページで公表することで、市民の皆さまに身近な環境について知っていただき、環境や自然について考えるきっかけをつくることを主な目的としています。

## 目次

1・ 調査目的	1
2・ 調査範囲	1
3・ 調査の方法等	4
(1) 調査期間	4
(2) 調査方法	4
(3) 評価方法	5
4・ 調査結果 前期（4月～9月）	8
各地区の点数	8
近年の比較	9
得点化されている野鳥の目撃された地区	11
5・ 調査結果 年間（令和3年度）	16
各地区の目撃種類数	16
月毎の目撃種類数	17
近年の比較	18
野鳥毎の目撃された地区	20
6・ 参考資料	26
○土地利用状況	26
○特定外来生物	27
○その他の生きもの	32
○コラム	34
○地域環境調査員からの短信	37
おわりに	41

## 1・ 調査目的

松戸市で実施している地域環境調査には次のような目的があります。

- (1) 地域の野鳥を地域の人が自ら観察・調査することで、地域の環境についての関心を高めること。
- (2) 地域で観察された野鳥の変化を経年的に捉えることで、地域環境全般の総合的な評価を得ること。
- (3) (1) および (2) により、地域環境の問題点を浮き彫りにし、地域独自の自発的な取り組みの活力を高めること。
- (4) 松戸市環境計画の見直し等の総合指標として活用し、環境計画推進の実効性を向上すること。

## 2・ 調査範囲

松戸市全域を図-1のように1km四方の65調査区に分け、それぞれの地区に地域環境調査員(市民ボランティア)を配置し、担当調査区域内の環境を調査します。

図-1 調査区域図

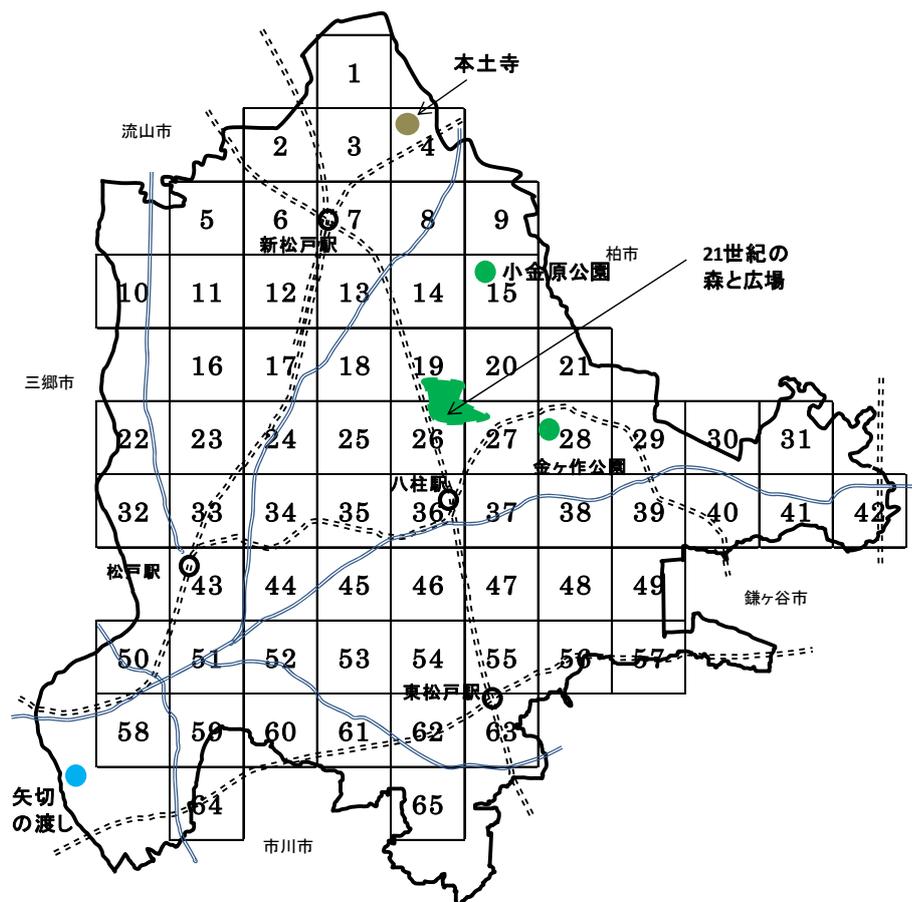


表-1 令和3年度地域環境調査（各地区の主な施設・場所）

地区 No	地区名	調査場所
1	幸田地区	幸田鉄塔通り、富士川・坂川沿い、幸田第1・2・3公園、浅間公園 等
2	横須賀地区	横須賀中央公園、坂川付近、大勝院、大倉記念病院、小金高校周辺 等
3	大金平地区	東漸寺、鹿嶋神社、本土寺、中金杉、広徳寺、大谷口歴史公園、大倉記念病院 等
4	東平賀地区	根木内城跡公園、富士川周辺、本土寺参道、北小金駅北口商店街、東平賀公園 等
5	新松戸地区	新松戸西小、南小、西パーク街、サンライト街区、あおぎり公園、もくれん公園、旭町田畑、稲荷大橋、坂川放水路左岸堤 等
6	新松戸地区	2番街、8番街、新松戸中央公園、けやき通り、坂川 等
7	幸谷地区	大谷口新橋、下山公園、溜脇公園、関さんの森N02、東漸寺、山王公園、こどもの森、幸谷斜面林、新松戸第1公園、水琴橋 等
8	久保平賀地区	清ヶ丘小金公園、ユーカリ交通公園 等
9	根木内地区	根木内歴史公園及び広池学園との市境 等
10	主水新田地区	まこも池、主水新田地区、江戸川河川敷、主水池、稲荷神社、栄町・旭町田んぼ付近 等
11	旭町地区	はすだ公園、けやき公園 等
12	西馬橋地区	新坂川、相川公園、新松戸南公園、中道公園、西馬橋1～3丁目、広田公園 等
13	幸谷地区	二三ヶ丘公園、南谷公園 等
14	八ヶ崎地区	金谷寺周辺、八ヶ崎第二小学校周辺、すずめ公園 等
15	小金原地区	小金原7丁目 等
16	栄町地区	下通橋、香取神社、吉岡梨園、長津道橋(坂川)、旭小、馬橋高手前六間川、日本大学周辺 等
17	西馬橋地区	全域(ロード) 等
18	馬橋地区	中和倉公園、馬橋第二公園 等
19	八ヶ崎地区	21世紀の森と広場 等
20	栗ヶ沢地区	はくちょう公園、栗ヶ沢中、ひばり公園、貝の花小、高木小学校、千葉西病院 等
21	金ヶ作地区	金ヶ作自然公園 等
22	古ヶ崎地区	江戸川河川敷

地区 No	地区名	調査場所
23	古ヶ崎地区	古ヶ崎第二公園、栄町第二公園 等
24	北松戸地区	中台公園 等
25	上本郷地区	松戸運動公園、県立松戸高校周辺 等
26	千駄堀地区	21世紀の森と広場、香取神社周辺、松戸中央霊園 周辺 等
27	常盤平地区	21世紀の森と広場、常盤平団地 等
28	常盤平地区	金ヶ作公園、ふよう公園 等
29	五香六実地区	金ヶ作周辺 等
30	六高台地区	北丘第二公園 等
31	高柳新田地区	六高台3～6丁目、六実中央公園、グリーンベルト (桜並木)、六実中学校 等
32	古ヶ崎地区	江戸川河川敷、樋野口 等
33	根本地区	中町児童公園、松戸市役所 等
34	南花島地区	南花島公園、上本郷駅 等
35	松戸新田地区	稔台駅、松戸運動公園 等
36	日暮地区	千駄堀、駒形公園周辺 等
37	常盤平地区	牧の原付近 等
38	初富飛地地区	牧の原団地公園、調整池周辺、金比羅神社、しら かし公園、けやき通り 等
39	松飛台地区	松飛台小学校周辺 等
40	五香六実地区	元山駅、ふれあい公園 等
41	六実地区	スポーツ広場周辺、六実1～3丁目 等
42	六実地区	六実3～5丁目 等
43	松戸地区	坂川周辺、松戸中央公園、松戸神社 等
44	胡録台地区	松ヶ丘小学校周辺、神明神社 等
45	稔台地区	稔台工業団地、和名ヶ谷地区 等
46	稔台地区	河原塚小周辺
47	河原塚地区	八柱霊園
48	松飛台地区	八柱霊園
49	松飛台地区	松戸南郵便局 等
50	小山地区	江戸川河川敷、南部小学校、坂川、川端道他、角 町周辺等
51	三矢小台地区	戸定が丘歴史公園、千葉大園芸学部 等
52	二十世紀が丘地区	和名ヶ谷中、和名ヶ谷クリーンセンター周辺 等

地区 No	地区名	調査場所
53	和名ヶ谷地区	和名ヶ谷、国分川周辺等
54	紙敷地区	河原塚中学校周辺、国分川周辺、春日神社、春木川 等
55	紙敷地区	東松戸駅周辺、八柱霊園周辺、東松戸駅周辺 等
56	松飛台地区	松飛台駅、関台公園 他
57	松飛台地区	泉ヶ丘1号緑地
58	中矢切地区	野菊の墓、下矢切 264 周辺 等
59	三矢小台地区	三矢小台公園、寺沢公園、鴻之台公園、神明公園、矢切神社 等
60	二十世紀が丘地区	大橋公園、胡録神社 等
61	秋山地区	松戸向陽高校周辺 等
62	秋山地区	もえぎの風公園周辺 等
63	高塚新田地区	高塚十字路 等
64	矢切地区	矢切地区、栗山浄水場、立身台公園 等
65	高塚新田地区	東部市民センター

### 3・ 調査の方法等

#### (1) 調査期間

各年度の4月～3月末までの1年間を調査期間としています。

そのうち、春～夏の期間の4月～9月を“前期”、秋～冬の期間の10月～3月を“後期”とし、半年ごとに分けています。

表-2 令和3年度の調査期間

前期	令和3年4月～令和3年9月（春～夏）
後期	令和3年10月～令和4年3月（秋～冬）

#### (2) 調査方法

調査員は、各自で選んだ担当調査区内で比較的環境度の高いと思われる（公園や神社、田畑、河川敷等）場所において、可能な回数の野鳥観察を実施します。野鳥の種類が分かったものについて○を調査票に記入し、半年ごとに事務局（市）へ報告します。

### (3) 評価方法

評価にあたっては、公益財団法人日本鳥類保護連盟（以下：公財）日本鳥類保護連盟）が作成した「環境ものさし」を用いて行います。

この「環境ものさし」では、どのような環境にも生息できる鳥から豊かな自然環境にしか生息できない鳥まで、指標となるもの50種類選出されています。ドバトのような身近にいる鳥には1点、クマタカのような森林地帯にいるような鳥には10点など、それぞれに1点～10点（表-3）の点数がつけられています。

この評価方法に基づき、観察された野鳥の合計点を算出することによって、その地域の環境度を知ることができます。

なお、「環境ものさし」では、鳥の繁殖期間にあたる春～夏（4月～9月）の期間が点数の対象となっています。

#### 環境度の算出対象期間：春～夏 4月～9月

表-3 「環境ものさし」における野鳥の点数

10点	クマタカ	7点	アカゲラ	5点	ヒバリ
9点	アカショウビン	7点	オオアカゲラ	4点	コゲラ
9点	サシバ	7点	オオタカ	4点	メジロ
	フクロウ	7点	キビタキ	4点	キジ
8点	アオバズク	7点	センダイムシクイ	4点	セグロセキレイ
8点	アオバト	6点	ホトトギス	3点	カワラヒワ
	ツツドリ	6点	ヤマガラ	3点	キジバト
8点	クロツグミ	6点	エナガ	3点	シジュウカラ
8点	コガラ	6点	イカル	3点	ツバメ
	ゴジュウカラ	5点	ウグイス	3点	コシアカツバメ
8点	サンコウチョウ	5点	ホオジロ	3点	ヒヨドリ
8点	サンショウクイ	5点	カッコウ	3点	ムクドリ
8点	ミソサザイ	5点	モズ	2点	スズメ
	オオルリ	5点	カワセミ	2点	ハクセキレイ
8点	ヤマドリ	5点	キセキレイ	2点	ハシボソガラス
7点	アオゲラ	5点	セッカ	1点	ドバト
		5点	オオヨシキリ	1点	ハシブトガラス

図-2 野鳥の点数 (出典：公財) 日本鳥類保護連盟)



例えば、スズメを観察すれば2点になりますが、1羽でも多数観察しても同じ2点になります。また、同じ4点の枠にいるコゲラ若しくはメジロの場合には、どちらか又は両方観察しても、同じ4点のみになります。

これらの点数を合計し、点数により地域の環境度を評価します。評価の基準は点数により5段階に分かれ、環境の状態は表-4のようになります。

表-4 環境度・点数と環境の状態

合計点と環境	環境の状態
A : 121 点以上	<p>Bまでの鳥に加え、ツツドリ、オオルリ、クロツグミのような森林性の鳥が見られるようでしたら、そこは里山から奥山化へと進んだ山地的な環境と言えるでしょう。</p> <p>また、森林生態系の頂点に立つクマタカや、森に棲むカワセミの仲間であるアカショウビンが見られれば、そこは私たちの生活圏からかなり離れた、自然豊かな山地の森林です。</p>
B : 81~120 点	<p>Cまでの鳥に加え、ホトトギスやヤマガラ、エナガのようなまとまった森林に生息する鳥が見られるようでしたら、そこは丘陵や谷津田のある里山的な環境と言えるでしょう。</p> <p>もし、サンバなどが見られれば、そこは典型的な里山です。里山は、昔から人によって利用・管理されてきた場所ですが、今では自然豊かな環境として注目されています。</p>
C : 41~80 点	<p>Dまでの鳥に加え、ヒバリのように草地に生息する鳥、セグロセキレイのように水辺を利用する鳥、ホオジロやモズのように林を利用する鳥が見られるようでしたら、そこは市街地から離れた広がりのある田園的な環境と言えるでしょう。</p> <p>田園地帯は人によって作られた空間ですが、生物の生息に適した環境が比較的残っています。</p>
D : 21~40 点	<p>Eの鳥に加え、シジュウカラやメジロ、ヒヨドリなど、ある程度まとまった木々があれば生息できる鳥が見られるようでしたら、そこは市街地の中でも比較的緑のある環境と言えるでしょう。</p> <p>このような緑地の多くは公園として利用されていますが、同時にそこは市街地に棲む生息空間となる重要な場所です。</p>
E : 1~20 点	<p>カラスやドバトのように様々な環境への順応力の高い鳥や、スズメのように人の生活に依存するような鳥しか見られないようでしたら、そこは市街地の中でも都市化の進んだ環境と言えるでしょう。</p> <p>多様な生物の棲む環境としては適していません。</p>

#### 4・ 調査結果 前期（4月～9月）：環境度の評価対象期間

令和3年度前期に一羽でも野鳥の発見報告があった地区は、65地区中44地区でした。「環境ものさし」において点数化されている野鳥50種については、50種中37種の報告がありました。

報告された50種中37種の野鳥を点数化した結果、市全体での平均点は48点（前期に一度でも観察された野鳥を点数化し、報告のあった調査区数で割った平均点）となり、環境度はA～Eの5段階評価のうち松戸市としての平均はCの評価となりました。

地区毎に見てみますと、Bに属する81点以上120点以下となった地区は2地区あり、Cに属する41点以上80点以下となった地区は23地区でありました。

次の表-5に各地区の点数を示しております。

表-5 各地区の点数（4月～9月） （単位：点）

地区番号	1	2	3	4	5	6	7	
調査員数	6	2	2	3	5	3	3	
点数	76	34	41	47	54	39	54	
地区番号	8	9	10	11	12	13	14	
調査員数	2	2	2	1	1	0	0	
点数	56	56	68	30	31	0	0	
地区番号	15	16	17	18	19	20	21	
調査員数	4	1	1	0	1	0	0	
点数	75	41	40	0	58	0	0	
地区番号	22	23	24	25	26	27	28	
調査員数	2	0	2	2	2	1	1	
点数	61	0	22	44	63	39	33	
地区番号	29	30	31	32	33	34	35	
調査員数	2	0	2	6	0	1	0	
点数	30	0	51	121	0	0	0	
地区番号	36	37	38	39	40	41	42	
調査員数	2	2	0	2	2	1	1	
点数	33	32	0	35	5	0	47	
地区番号	43	44	45	46	47	48	49	
調査員数	1	0	0	1	2	1	0	
点数	29	0	0	26	77	46	0	
地区番号	50	51	52	53	54	55	56	
調査員数	1	2	1	0	2	1	1	
点数	34	74	44	0	68	30	62	
地区番号	57	58	59	60	61	62	63	
調査員数	0	3	2	0	0	0	1	
点数	0	89	50	0	0	0	17	
地区番号	64	65	合計 2,094 点 ÷ 44 地区（報告のあった地区数） ＝松戸市の平均 48 点 → 環境度：C					
調査員数	1	0						
点数	32	0						

※  は、環境度がB（81点以上）の地区になります。

次は、令和2年度と3年度の各地区の状況を図-3及び図-4にて示しています。

図-3 地区別点数（令和2年度）

48点／環境度：C

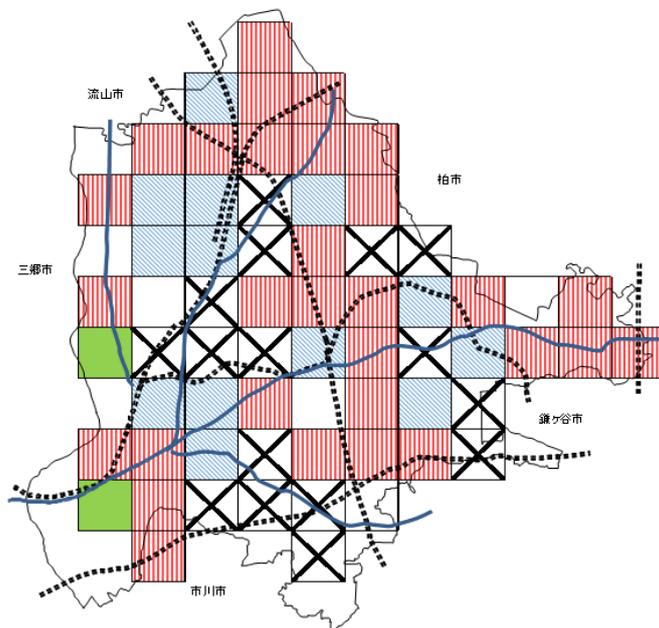
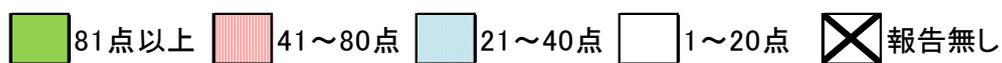
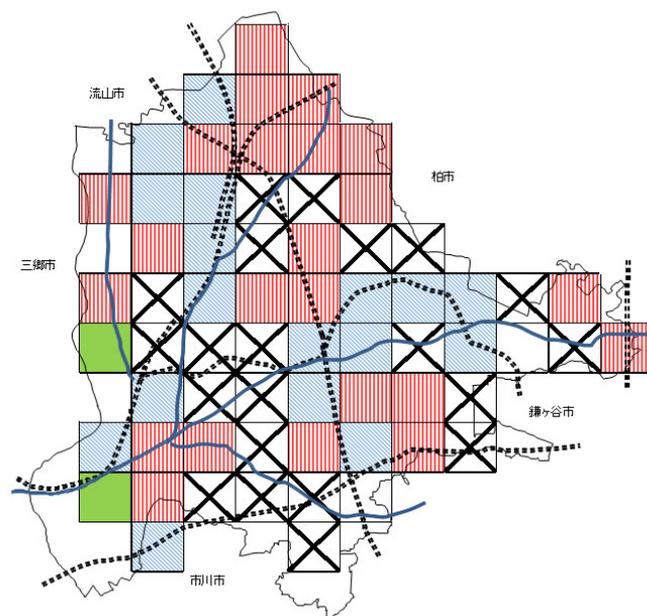


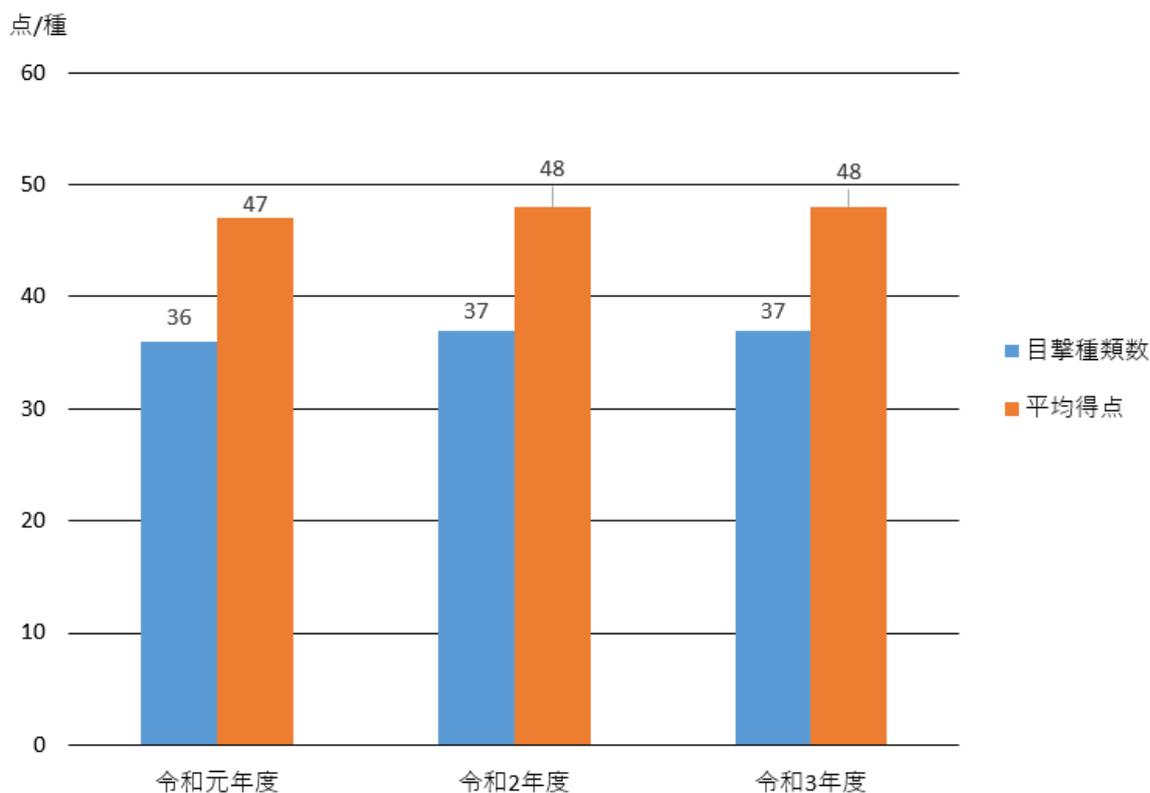
図-4 地区別点数（令和3年度）

47点／環境度：C



次は、経年の比較として3年分の日撃種類数及び平均点数を表-6にて示しています。

表-6 令和元年度～3年度（前期）における松戸市の点数等について



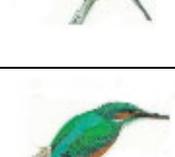
※目撃種類数は、得点化されている50種になります。

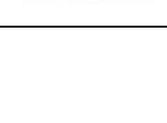
次は、野鳥別に目撃された地区を表-7のとおり示しています。

表-7 得点化されている野鳥の目撃された地区

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
1		ドバト	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 12・15・16・17・22・24・25・26・ 28・29・31・32・36・39・42・43・ 46・47・48・50・51・52・54・55・ 56・58・59・64
1		ハシブトカラス	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・16・17・19・22・24・ 25・26・27・28・29・31・32・36・ 37・39・42・43・46・47・48・50・ 51・52・54・55・56・58・59・64
2		スズメ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・16・17・19・22・24・ 25・26・28・29・31・32・36・37・ 39・40・42・43・46・47・48・50・ 51・52・54・55・56・58・59・64
2		ハクセキレイ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・15・16・17・19・22・24・26・ 27・28・29・31・32・36・39・42・ 43・46・47・48・50・51・54・55・ 56・58・59・64
2		ハシボソカラス	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・16・17・19・22・25・ 26・27・28・31・32・37・39・42・ 47・48・51・52・54・55・56・58・ 59・64
3		カワラヒワ	1・2・3・5・6・7・8・9・10・11・ 15・16・17・22・31・32・36・37・ 39・42・46・47・48・50・51・52・ 54・55・56・58・59
3		キジバト	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・16・17・19・22・24・ 25・26・27・28・29・31・32・36・ 37・39・40・42・46・47・48・50・ 51・52・54・55・56・58・59・64
3		コシアカツバメ	

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
3		ツバメ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・15・16・17・19・22・24・25・ 26・27・28・29・31・32・36・37・ 39・42・43・46・47・48・50・51・ 52・54・56・58・59・64
3		シジュウカラ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・15・16・19・22・25・26・27・ 28・29・31・32・36・37・39・42・ 43・47・48・50・51・52・54・55・ 56・58・59・63・64
3		ヒヨドリ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・16・19・22・24・25・ 26・27・28・29・31・32・36・37・ 39・42・46・47・48・50・51・52・ 54・56・58・59・64
3		ムクドリ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・16・17・19・22・24・ 25・26・27・28・29・31・32・36・ 37・39・42・43・46・47・48・50・ 51・52・54・55・56・58・59・64
4		キジ	1・5・10・22・32・54・58
4		コゲラ	1・2・3・7・8・9・15・19・25・ 26・27・28・31・32・36・47・48・ 51・52・58・59
4		メジロ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・15・ 25・26・27・28・29・31・32・36・ 37・39・43・47・48・51・52・56・ 58・59・63
4		セグロセキレイ	1・2・6・12・15・17・19・22・24・ 25・26・27・32・56・59・64
5		ウグイス	1・3・4・5・7・8・9・10・15・19・ 25・26・27・29・31・32・36・39・ 42・43・47・48・51・54・55・56・ 58・59・63

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
5		ウグイス	1・3・4・5・7・8・9・10・15・19・ 25・26・27・29・31・32・36・39・ 42・43・47・48・51・54・55・56・ 58・59・63
5		ホオジロ	1・4・8・9・10・15・22・26・31・ 32・58
5		オオヨシキリ	1・5・10・22・26・31・32・54・ 58
5		セッカ	1・10・15・22・32・58
5		カッコウ	32
5		モズ	1・4・5・7・8・9・10・15・16・ 19・22・25・26・32・42・47・48・ 50・51・52・54・58・59・63
5		カワセミ	1・4・6・8・9・10・16・17・19・ 26・31・32・43・46・51・54・56・ 58
5		キセキレイ	8・9・32
5		ヒバリ	1・4・5・10・11・12・15・16・17・ 22・25・32・37・42・50・52・54・ 55・56・58・64
6		イカル	
6		エナガ	1・3・7・8・9・10・15・17・19・ 26・28・31・32・42・47・51・52・ 54・56・58・59

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
6		ヤマガラ	1・3・7・8・9・15・19・26・27・ 28・31・32・47・48・51・52・58・ 59
6		ホトトギス	26
7		アオゲラ	
7		アカゲラ	
7		オオアカゲラ	
7		オオタカ	1・10・15・19・22・32・54・58
7		キビタキ	32・47・51・56
7		センダイムシクイ	12・32
8		アオバズク	
8		アオバト	
8		ツツドリ	32・47
8		オオルリ	32・47・51
8		ミソサザイ	

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
8		クロツグミ	
8		コガラ	15
8		ゴジュウカラ	15・58
8		サンコウチョウ	32・47・51
8		サンショウクイ	7
8		ヤマドリ	
9		アカショウビン	
9		サシバ	
9		フクロウ	32・58
10		クマタカ	

## 5・ 調査結果 年間（令和3年度）

令和3年度中に一度でも野鳥の発見報告があった地区は、65地区中45地区でした。観察報告のあった目撃種類数は、年間で125種類でした。

地区毎に見てみますと、61種以上の地区は2地区あり、41種以上60種以下の地区は7地区でした。

次は、表-8に各地区の野鳥目撃種類数を示しております。

表-8 各地区の目撃種類数（年間）

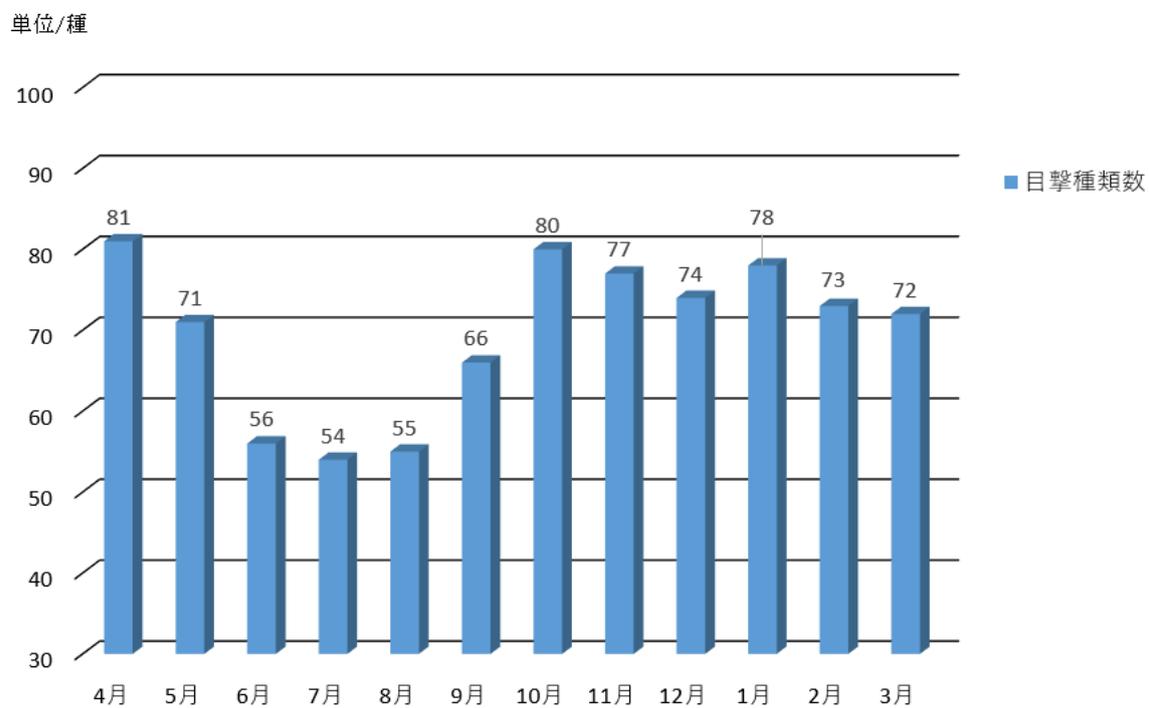
（単位：種）

地区番号	1	2	3	4	5	6	7
調査員数	6	2	2	3	5	3	3
種類数	55	31	26	34	58	33	35
地区番号	8	9	10	11	12	13	14
調査員数	2	2	2	1	1	0	0
種類数	28	28	60	25	17	—	—
地区番号	15	16	17	18	19	20	21
調査員数	4	1	1	0	1	0	0
種類数	33	26	28	—	43	—	—
地区番号	22	23	24	25	26	27	28
調査員数	2	0	2	2	2	1	1
種類数	48	—	15	20	43	24	20
地区番号	29	30	31	32	33	34	35
調査員数	2	0	2	6	0	1	0
種類数	17	—	40	105	—	—	—
地区番号	36	37	38	39	40	41	42
調査員数	2	2	0	2	2	1	1
種類数	21	17	—	15	17	13	29
地区番号	43	44	45	46	47	48	49
調査員数	1	0	0	1	2	1	0
種類数	20	—	—	23	34	26	—
地区番号	50	51	52	53	54	55	56
調査員数	1	2	1	0	2	1	1
種類数	24	33	24	—	51	18	32
地区番号	57	58	59	60	61	62	63
調査員数	0	3	2	0	0	0	1
種類数	—	68	27	—	—	—	8
地区番号	64	65					
調査員数	1	0					
種類数	15	—					

※  は、目撃種類数が61種類以上の地区になります。

次の表-9 では令和3年度における月別に目撃された種類数を示しています。

表-9 令和3年度における月毎の野鳥の目撃種類数



次は、令和2年度と令和3年度の各地区で目撃された種類数の状況を図-5及び図-6にて示しています。

図-5 地区別目撃種類数（令和2年度）  
127種類／年間

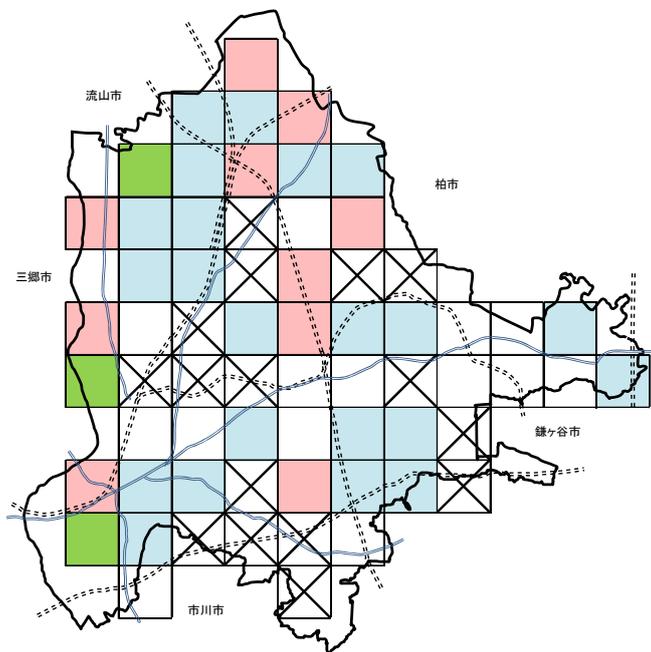
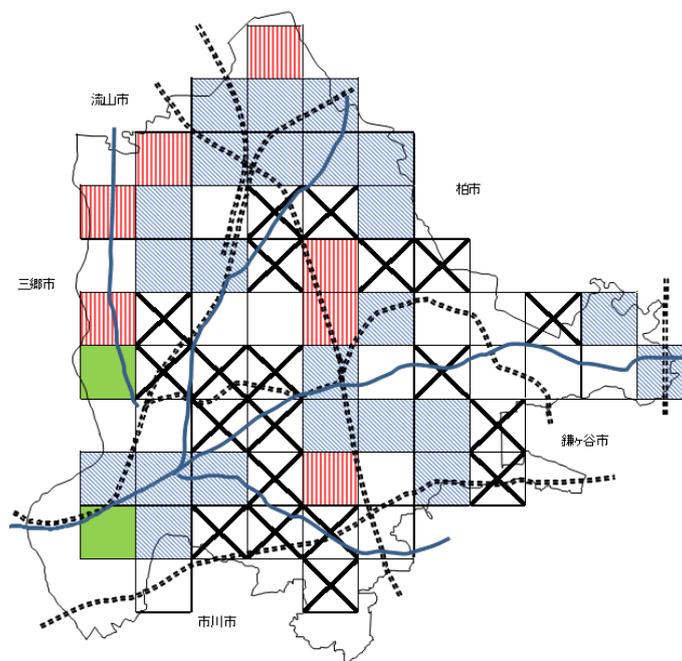


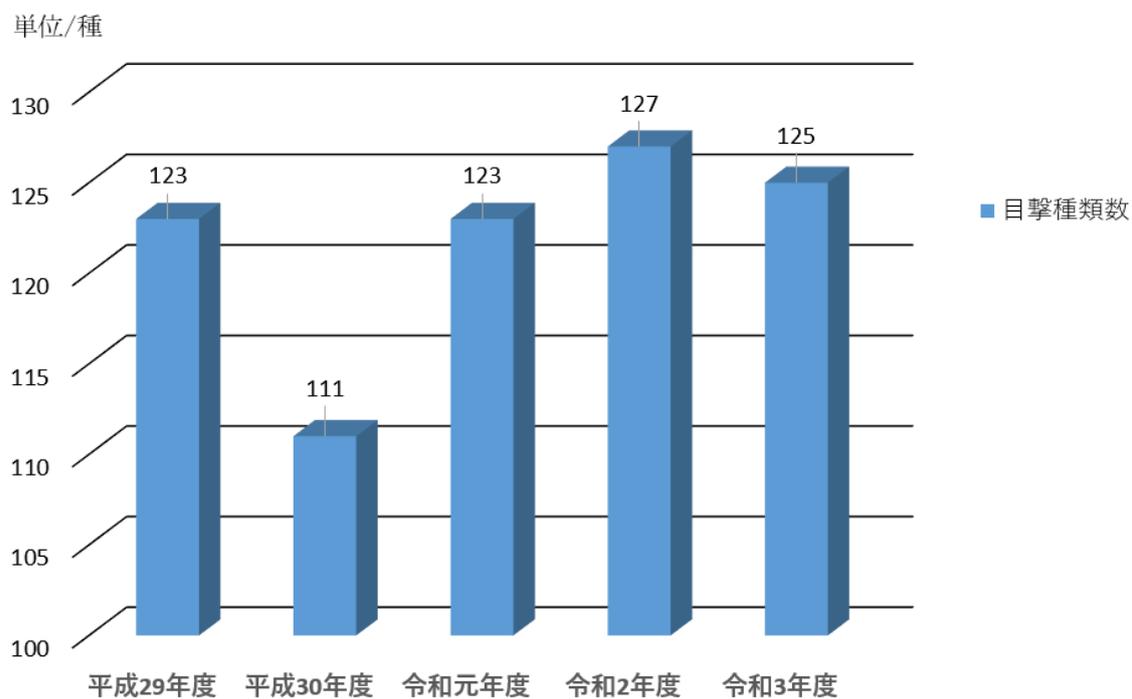
図-6 地区別目撃種類数（令和3年度）  
125種類／年間



61種以上
  41～60種
  21～40種
  1～20種
 X 報告無し

次は、経年の比較として5年分の目撃された種類数を表-10にて示しています。

表-10 平成29年度～令和3年度における目撃種類数



目撃された野鳥の種類数を比べてみると、昨年より多少、種類数が減少しています。年度によって調査員の経験や調査回数、調査員の配置された人数などに影響されると考えられます。

なお、観察された場所を見てみると河川などの水面・田畑・樹林地や街路樹、植林等の樹木が多いところなどで多くの野鳥が観察される結果となっています。

次の表－11 では、令和3年度に野鳥毎に目撃された地区を示しています。

表－11 令和3年度において野鳥の目撃された地区（年間）

◇以下得点の対象となっている野鳥（五十音順）

種類	地区数	目撃された地区
アオバズク	1	5
アオバト	1	47
イカル	3	31・32・42
ウグイス	35	1・3・4・5・6・7・8・9・10・15・19・22・25・ 26・27・29・31・32・36・37・39・40・41・42・ 43・47・48・51・52・54・55・56・58・59・63
エナガ	28	1・3・4・5・6・7・8・9・10・15・17・19・25・ 26・27・28・31・32・37・42・47・48・51・52・ 54・56・58・59
オオタカ	14	1・5・10・15・19・22・31・32・36・51・54・56・ 58・59
オオヨシキリ	9	1・5・10・22・26・31・32・54・58
オオルリ	3	32・47・51
カッコウ	1	32
カワセミ	22	1・2・4・5・6・7・8・9・10・16・17・19・22・ 26・31・32・43・46・51・54・56・58
カワラヒワ	34	1・2・3・5・6・7・8・9・10・11・15・16・17・ 19・22・31・32・36・37・39・40・42・46・47・ 48・50・51・52・54・55・56・58・59・63
キジ	7	1・5・10・22・32・54・58
キジバト	43	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・ 17・19・22・24・25・26・27・28・29・31・32・ 36・37・39・40・41・42・46・47・48・50・51・ 52・54・55・56・58・59・64
キセキレイ	6	8・9・27・31・32・56
キビタキ	6	7・28・32・47・51・56
クロツグミ	1	15
コガラ	1	15
コゲラ	31	1・2・3・5・6・7・8・9・11・15・19・25・26・ 27・28・31・32・36・37・40・42・47・48・50・ 51・52・54・56・58・59・63
ゴジュウカラ	2	15・58
サンコウチョウ	3	32・47・51

種類	地区数	目撃された地区
サンショウクイ	1	7
シジュウカラ	43	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・15・16・17・19・22・25・26・27・28・29・31・32・36・37・39・40・41・42・43・46・47・48・50・51・52・54・55・56・58・59・63・64
スズメ	43	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・17・19・22・24・25・26・28・29・31・32・36・37・39・40・41・42・43・46・47・48・50・51・52・54・55・56・58・59・64
セグロセキレイ	22	1・2・3・4・6・10・12・15・17・19・22・24・25・26・27・32・39・54・56・58・59・64
セッカ	6	1・10・15・22・32・58
センダイムシクイ	2	12・32
ツツドリ	2	32・47
ツバメ	42	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・15・16・17・19・22・24・25・26・27・28・29・31・32・36・37・39・40・41・42・43・46・47・48・50・51・52・54・56・58・59・64
ドバト	40	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・12・15・16・17・22・24・25・26・28・29・31・32・36・39・40・41・42・43・46・47・48・50・51・52・54・55・56・58・59・64
ハクセキレイ	41	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・15・16・17・19・22・24・26・27・28・29・31・32・36・39・40・41・42・43・46・47・48・50・51・52・54・55・56・58・59・64
ハシブトカラス	43	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・17・19・22・24・25・26・27・28・29・31・32・36・37・39・40・42・43・46・47・48・50・51・52・54・55・56・58・59・64
ハシボソカラス	40	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・17・19・22・25・26・27・28・29・31・32・37・39・40・41・42・43・47・48・51・52・54・55・56・58・59・64

種類	地区数	目撃された地区
ヒバリ	23	1・4・5・10・11・12・15・16・17・22・25・32・37・40・41・42・50・52・54・55・56・58・64
ヒヨドリ	44	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・17・19・22・24・25・26・27・28・29・31・32・36・37・39・40・41・42・43・46・47・48・50・51・52・54・55・56・58・59・64
フクロウ	2	32・58
ホオジロ	15	1・3・4・8・9・10・15・19・22・26・31・32・42・54・58
ホトトギス	1	26
ムクドリ	44	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・17・19・22・24・25・26・27・28・29・31・32・36・37・39・40・41・42・43・46・47・48・50・51・52・54・55・56・58・59・64
メジロ	40	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・15・16・17・19・22・25・26・27・28・29・31・32・36・37・39・40・41・42・43・47・48・51・52・54・55・56・58・59・63・64
モズ	38	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・15・16・17・19・22・25・26・27・28・29・31・32・36・40・42・47・48・50・51・52・54・55・56・58・59・63・64
ヤマガラ	21	1・3・5・7・8・9・15・19・26・27・28・31・32・42・47・48・51・52・56・58・59

◇以下得点の対象となっていない野鳥（五十音順）

種 類	地区数	目撃された地区
アオサギ	25	1・2・4・5・7・8・9・10・11・12・15・16・17・19・22・26・31・32・42・43・50・51・54・56・58
アオジ	27	1・2・3・4・7・8・9・10・12・15・19・22・25・26・27・28・31・32・47・48・50・51・54・55・56・58・59
アカハラ	12	5・15・19・22・25・31・32・42・47・51・58・59
アトリ	2	15・32
アマサギ	2	5・11
アメリカヒドリ	1	32
アリスイ	3	10・32・58
イカルチドリ	1	32
イソシギ	7	1・2・4・5・10・32・58
イソヒヨドリ	8	2・6・7・31・32・45・50・52
イワツバメ	6	2・5・6・12・54・58
ウミアイサ	1	32
ウミネコ	3	15・32・58
エゾビタキ	4	5・7・32・58
エゾムシクイ	2	32・58
オオジシギ	1	32
オオジュリン	8	4・5・10・17・22・32・54・58
オオハクチョウ	3	7・19・26
オオバン	19	1・2・4・5・6・7・10・12・16・17・19・22・23・26・32・43・50・54・58
オカヨシガモ	5	2・4・19・26・32
オシドリ	3	19・32・58
オナガ	47	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・14・15・16・17・19・22・23・25・27・28・29・30・31・32・36・37・39・40・41・42・43・44・45・47・48・50・51・52・54・55・56・58・59・63・64
オナガガモ	8	15・19・26・29・32・46・54・58
カイツブリ	13	1・2・4・5・10・12・19・22・26・32・50・54・58
カケス	12	3・4・7・19・25・26・27・32・48・51・56・58
カシラダカ	5	8・9・10・19・32
カルガモ	30	1・2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・17・19・22・23・25・26・27・31・32・40・43・46・50・52・54・56・58

種 類	地区数	目撃された地区
カワウ	22	1・2・4・5・6・7・10・11・12・15・16・17・19・22・23・26・32・43・46・50・54・58
カンムリカイツブリ	8	5・10・19・22・26・32・50・58
キアシシギ	2	5・11
キクイダタキ	2	47・58
キンクロハジロ	7	1・5・10・32・46・54・58
クイナ	5	1・4・32・54・58
クサシギ	1	32
クロジ	2	28・32
ケリ	1	58
コアジサシ	5	5・10・11・32・50
ゴイサギ	10	1・10・16・19・25・26・31・32・43・58
コガモ	16	1・4・5・6・7・10・12・16・19・22・26・31・32・46・54・58
コサギ	23	1・4・5・7・8・9・10・11・12・15・16・17・19・26・31・32・42・43・46・50・54・56・58
コジュケイ	4	10・25・26・27
コチドリ	10	1・2・5・10・11・32・42・54・56・58
コハクチョウ	1	32
コミミズク	1	32
コムクドリ	5	11・22・32・58・59
コヨシキリ	1	12
シメ	19	3・4・7・15・19・22・26・27・28・31・32・42・47・50・51・54・56・58・59
ショウドウツバメ	1	32
ジョウビタキ	38	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・14・15・16・17・19・22・25・28・30・31・32・36・37・39・42・43・44・45・47・48・50・51・52・54・55・56・58・59
シラコバト	1	15
シロチドリ	1	54
シロハラ	21	3・4・5・7・10・15・19・25・26・27・28・31・32・42・47・48・51・55・56・58・59
スズガモ	3	5・32・58
ダイサギ	17	1・4・5・6・8・9・10・11・16・19・22・26・32・50・54・56・58
タゲリ	6	5・10・11・16・32・58
タシギ	7	1・5・16・31・46・54・58

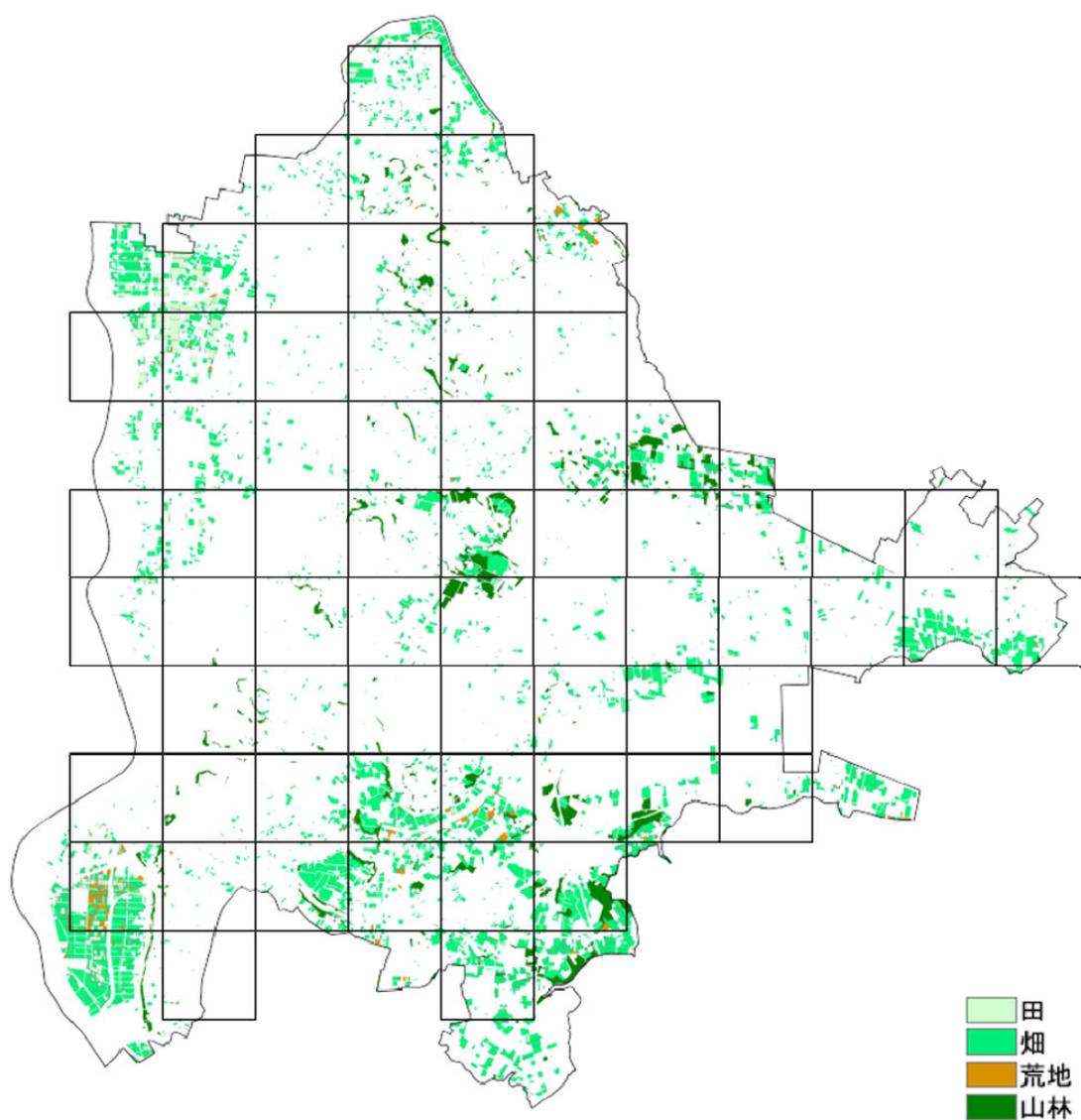
種 類	地区数	目撃された地区
タヒバリ	8	1・5・10・15・22・32・54・58
チョウサギ	8	2・5・10・11・31・32・54・58
チュウシャクシギ	2	5・11
チョウゲンボウ	12	1・5・7・10・11・15・22・32・48・50・58・59
ツグミ	39	1・2・4・5・6・7・8・9・10・11・15・16・17・19・ 22・25・26・27・28・30・31・32・36・39・41・42・ 43・45・46・47・48・50・51・52・54・55・56・58・ 59
ツミ	7	5・6・7・12・28・31・32
トビ	7	10・15・22・32・47・58・59
トモエガモ	1	32
トラツグミ	2	32・58
ニシセグロカモメ	1	32
ノスリ	9	10・19・26・27・32・47・54・55・58
ノビタキ	3	10・32・58
ハイタカ	1	32
ハシビロガモ	5	1・5・32・46・54
ハヤブサ	3	28・32・58
バン	8	1・4・5・7・19・32・54・58
ヒガラ	1	7
ヒドリガモ	14	1・2・4・5・6・10・16・19・23・32・46・50・54・ 58
ビンズイ	2	32・47
ベニマシコ	4	10・22・32・50
ホオアカ	2	10・32
ホシハジロ	7	1・5・10・22・32・54・58
マガモ	12	1・4・5・11・19・22・26・31・32・46・54・58
マヒワ	5	7・19・26・32・47
ミコアイサ	1	32
ミサゴ	3	5・32・50
ムナグロ	5	5・11・22・32・58
メボソムシクイ	1	32
ユリカモメ	9	1・2・5・7・10・12・32・50・58
ヨシガモ	1	32
ルリビタキ	5	2・8・26・27・47
ワカケホンセイインコ	1	15

## 6・ 参考資料

### ○土地利用状況

土地利用状況調査は、平成 17 年度から平成 21 年度にかけて、調査員自身に野鳥観察とは違った目線で、地域の環境を知ってもらえるのではないかという目的から実施していましたが、平成 23 年度からは都市計画基礎調査より土地利用現況を掲載しています。

図－8 土地利用状況



## ○特定外来生物

平成 27 年度から地域環境調査などでの活動において、特定外来生物やその他の生きものを目撃した際には、調査員の方に報告をお願いしているところです。

「特定外来生物」・・・外来生物（海外が起源のもの）のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から環境省において指定されたものをいいます。

特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれます。また、原則として飼育・栽培・保管・運搬することが禁止されています。

目撃した場合には、写真を撮影の上、環境政策課に連絡いただくか、松戸市ホームページに専用のフォームがありますので、必要事項を入力の上、投稿してください。

専用フォーム

【松戸市 TOP⇒くらし⇒環境⇒自然環境⇒外来生物⇒特定外来生物の目撃情報投稿フォーム】

アドレス：

[http://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/kankyoku/shizenkankyo/mokugeki\\_jyohou.html](http://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/kankyoku/shizenkankyo/mokugeki_jyohou.html)

(1) 市内で確認されている特定外来生物（一部抜粋）

・アライグマ



ペットとして飼われていたものが野生化した結果、生態系や農作物などに深刻な被害を与えています。見かけによらずどう猛な性格をしています。

大きさ	体長 40～60 cm、尾が 20～40 cm 全体で 60 cm～1m位になります。
特徴	尾のしま模様が最大の特徴です。模様がなければ違う生きものです。

・カミツキガメ



大型に成長し、様々な生物を捕食します。また、噛む力が強く、人間の身体への被害も想定されます。

大きさ	背甲長 50 cm 体重は約 30 kgにも達する。
特徴	鋭い口と爪、甲羅に 3 本の隆条（キール）、尾は 1～3 列の鱗状

・オオキンケイギク



5月～7月頃にかけて咲き、道端や河原などに生息します。強靱なため一度定着すると他の在来植物などの生育場所を奪ってしまいます。

大きさ	草丈は 30～70 cm程度
特 徴	黄橙色の花びら、花びらの先端がギザギザ

・アレチウリ



一年生のつる植物で、開花期は8月～10月になります。全国の河川等で繁茂し、他の植物がほとんど生育しないなどの恐れがあります。

大きさ	長さは、数メートルから十数メートルに及ぶ
特 徴	葉がハート形の手のひらサイズ、ツルからは3～4本の巻きひげ

(2) 千葉県内で確認されている特定外来生物

今のところ市内で確認はされておりませんが、近隣市では確認されたものもいます。定着等を防ぐためにも調査の傍ら、目撃した場合には、情報提供をお願いいたします。

種別	番号	種名	分類	番号	種名
哺乳類	1	アカゲザル	昆虫類	25	アカボシゴマダラ ★
	2	アカゲザル交雑種		26	セイヨウオオマルハナバチ
	3	マスクラット		27	アカカミアリ
	4	アライグマ ★		28	ヒアリ
	5	キョン	甲殻類	29	ウチダザリガニ
鳥類	6	カナダガン	クモ類	30	セアカゴケグモ ★
	7	ガビチョウ	軟体動物	31	カワヒバリガイ
	8	カオグログビチョウ		32	オオキンケイギク ★
	9	カオジログビチョウ		33	ミズヒマワリ
10	ソウシチョウ	34		オオハンゴンソウ	
爬虫類	11	カミツキガメ ★	植物	35	ナルトサワギク
	12	ハナガメ		36	オオカワヂシャ
	13	ハナガメとニホンイシガメの交雑種		37	ナガエツルノゲイトウ ★
	14	ハナガメとクサガメの交雑種		38	アレチウリ ★
両生類	15	ウシガエル ★		39	オオフサモ ★
魚類	16	オオタナゴ		40	オオバナミズキンバイ
	17	コウライギギ		41	ボタンウキクサ
	18	チャンネルキャットフィッシュ		42	アメリカオオアカウキクサ
	19	カダヤシ ★		43	ナガエモウセンゴケ
	20	ブルーギル ★			
	21	コクチバス		★市内で確認しているもの	
	22	オオクチバス ★			
	23	ストライプトバス			
	24	ショートノーズガー			

※「令和3年度千葉県環境白書」から抜粋

(3) 近年話題になった特定外来生物

松戸市内では確認されていませんが、近隣市や近隣の県等で確認されています。

- ・ヒアリ（千葉県内確認あり）



南米中部原産で、日本には港湾などのコンテナに紛れるなどして見つかっています。攻撃性が強く、巣などに刺激を与えると集団で襲いかかります。

大きさ	2・5mm～6mm程度 体の色は全体的に赤茶色
特徴	背中に2つのこぶ。
備考	在来のアリの中にも体が赤茶色のアリはいます。赤茶色だからといって必ずしもヒアリとは限りません。

- ・セアカゴケグモ（千葉県内確認あり）



地面や人工物の裏など日当たりの良い暖かい場所に営巣します。攻撃性はありますが、むやみに近づくと噛まれる恐れがあります。

大きさ	メスは大きさが1cm程度、脚を広げると約3cm。オスはその半分
特徴	メス：背中に縦に赤い斑紋有り。 オス：斑紋無し。

## ○その他の生きもの

地域環境調査では、先に挙げた特定外来生物の他、調査員の方が興味を持った生きものなどについても報告をいただいているところです。

調査の傍ら、気づいた生きものや珍しい生きものがいましたらご報告いただいています。

### <トンボの目撃情報>

5 地区	ギンヤンマ・シオカラトンボ
7 地区	アキアカネ・アジアイトオンボ・ギンヤンマ・ナツアカネ
19 地区	アカトンボ・オニヤンマ・ギンヤンマ・コシアキトンボ・シオカラトンボ
26 地区	アカトンボ・オニヤンマ・ギンヤンマ・コシアキトンボ・シオカラトンボ・ショウジョウトンボ・チョウトンボ
27 地区	アカトンボ・オニヤンマ・コシアキトンボ
39 地区	アカトンボ・シオカラトンボ・ナツアカネ
47 地区	アカトンボ・シオカラトンボ

### <蝶の目撃情報>

5 地区	キタテハ・ナミアゲハ・ベニシジミ・モンキチョウ・モンシロチョウ・ヤマトシジミ
7 地区	アオスジアゲハ・アカタテハ・アカボシゴマダラ・イチモンジセセリ・ウラギンシジミ・キタテハ・キチョウ・クロアゲハ・クロコノマチョウ・コカマキリ・ゴマダラチョウ・コムスジ・ジャノメチョウ・スズメバチ・ナミアゲハ・ヒカゲチョウ・ヒメアカタテハ・ベニシジミ・モンキアゲハ・モンキチョウ・モンシロチョウ・ヤマトシジミ・ルリタテハ
19 地区	アオスジアゲハ・キアゲハ・クロアゲハ・ナミアゲハ・ムラサキシジミ・モンキチョウ・モンシロチョウ
25 地区	アゲハ
26 地区	アオスジアゲハ・キアゲハ・クロアゲハ・シジミチョウ・ムラサキシジミ・モンキチョウ・モンシロチョウ
27 地区	アオスジアゲハ・クロアゲハ・シジミチョウ・ナミアゲハ・ムラサキシジミ・モンキチョウ・モンシロチョウ

47 地区	アオスジアゲハ・クロアゲハ・シジミチョウ・ナミアゲハ・モンキ チョウ・モンシロチョウ
-------	---

<その他生きもの目撃情報>

5 地区	アマガエル・イエバエ・オカダンゴムシ・コブナ・ツリアブ・トウ キョウダルマガエル・ドジョウ・トノサマバッタ・ハクビシン・ハ クレン・マルハナバチ・ミシシッピーアカミミガメ・ミスジマイ イ・ミンミンゼミ・モグラ・ユスリカ
7 地区	アオカナブン・アカタテハ・アブラゼミ・イエバエ・ウスカワマイ マイ・ウラシジミ・キチョウ・キンバエ・クマンバチ・クロアリ・ コカマキリ・コイ・ショウリョウバッタ・ジョロウグモ・シロテン ハナムグリ・スズメバチ・ツクツクボウシ・ツリアブ・テントウム シ・トノサマバッタ・ナナホシテントウ・ナメクジ・ハナアブ・ハ ラビロカマキリ・フタホシテントウ・マルハナバチ・ミシシッピー アカミミガメ・ミンミンゼミ・ヤマトクサカゲロウ・ヤマトシジミ・ ユスリカ
19 地区	アブラゼミ・ウシガエル・オンブバッタ・カナヘビ・コオロギ・ツ クツクボウシ・ツユムシ・ミシシッピーアカミミガメ・ミンミンゼミ
26 地区	アオマツムシ・アシナガバチ・アブラゼミ・オンブバッタ・カナブ ン・カマキリ・カマドウマ・コオロギ・コバネイナゴ・ショウリョ ウバッタ・タヌキ・タマムシ・ツクツクボウシ・ツユムシ・テント ウムシ・トカゲ・ナナフシ・ニイニイゼミ・ヒグラシ・ヒシバッタ・ ミシシッピーアカミミガメ・ミンミンゼミ・ムシヒキアブ・ライギ ョ
27 地区	アオマツムシ・アブラゼミ・カナヘビ・コオロギ・コバネイナゴ・ ツクツクボウシ・ツユムシ・トカゲ・ミシシッピーアカミミガメ・ ミンミンゼミ
32 地区	アオダイショウ・イタチ・タヌキ
39 地区	アブラゼミ・クサギカメムシ・コウモリ・タヌキ・ハクビシン・ヘ ビ・ミンミンゼミ
40 地区	コウモリ
47 地区	アブラゼミ・コオロギ・ツクツクボウシ・ニイニイゼミ・ミンミン ゼミ

## ○コラム

このページでは、調査員の方から報告のあった野鳥の写真をご紹介します。



ノスリ

撮影者：仲真調査員

アカハラ

撮影者：平調査員



タゲリ

撮影者：村松調査員



ヤマガラ

撮影者：吉田調査員



キンクロハジロ

撮影者：平調査員



ヒバリ

撮影者：小松調査員



スズメ

撮影者：仲真調査員



ウグイス

撮影者：村松調査員



キジ

撮影者：小松調査員

## ○地域環境調査員からの短信（一部抜粋）

地域環境調査では年2回（半年に1回）、調査員が事務局へ調査票を提出していただきます。その中で調査員から市へ短信が寄せられることがあり、身近な環境の変化や出来事を報告していただいています。ここでは、それらの一部をご紹介します。

### 令和3年度調査員短信（前期）

地区	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・工事が続いていたが、終了後には野鳥が戻ってきた。他に住みやすい場所が見つからなかったとすれば悲しむべきだが、戻ってくれて良かったと思う。コロナで早朝散歩、ランニングの人々が増加し、坂川では餌をまく人々も増加していると思う。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カワセミ～隣接の11区・田圃の用水路などで時折見かけるが、残念ながら5区内では未確認が続いている。</li> <li>・大型魚・ハクレン～4月中旬から坂川放水路に多数の死骸（体長≒1.5m）が散見されるようになり、20日前後に河川管理事務所の方々が船外機付きの大型木造船と河川敷待機する職員の方の連携にて、船に死骸を引き上げる作業が行われたものの24日には中型・10本の死体が浮遊していた。5月には死骸は見られぬようになった。大型魚の死因は農薬や除草剤などによるものなのか不明との事。これ迄10数年、このような大型魚が坂川に居るのは未確認だった。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チョウゲンボウ ～ 5/14 ♂1羽 「関さんの森」上空を飛翔するのが久々に見られた。</li> <li>・特定外来種（新坂川に残留） ミシシッピーアカミミガメ 「遊泳・甲羅干し」が見られる。</li> <li>・異常気象のせいもあり キンモクセイは例年よりかなり早く咲きだし、9月初旬には花が散り敷き、9月中旬にはどこも素敵に香りがしなくなった。</li> <li>・第7区では域内と隣接区域で住宅建設～斜面林の樹木皆伐・用地造成～等が数年にわたり行われており、「自然環境が低下～悪化」しつつある。眼に見える現象として幾つかあるが、鳥たちが寄り付かなくなっている場所が見受けられる。また、新坂川の異常なゴミの堆積～中州状に水草が集積した場所に浮遊ゴミが蓄積していくのも見られる。大谷口新橋上流部には投げ込まれたと思われる大きな廃棄物が見られる。これまではカワセミのカップルが求愛給餌するのが毎年見られたのに、今季は全く見られなくなってしまった！</li> </ul>
22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月1日：ツグミが約70羽ソフトボール場でソーシャルディスタンスをとって？集結していた。渡り前の時期に間隔を空けて集まる姿は毎年みるが、コロナ禍の今年はヒトの姿と重なって笑ってしまった。</li> <li>・4月20日：今年初めてオオヨシキリの姿をみた。昨秋にグランドゴルフ場に隣接するアシ原が広範囲に刈り払われ、心配したが、この夏は周囲に残った狭いアシ原に高密度で生息していた。うまく繁殖できたか？来年どうなるか？気になる。</li> </ul>
31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリーンセンター公園横の調整池ではカワセミとゴイサギが観察されることが多く、今年は何度かイソヒヨドリも確認した。</li> </ul>

32	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4月20日：ケキョケキョ、とウグイスの声が頭上から聞えてきた。目を向けると梢でモズが歌って？いた。そのうちビーンとカワラヒワの鳴き真似も。さすが百舌！</li> <li>・7月10日：源内橋近くでオナガの群れの中に黄色い鳥が見えた。双眼鏡で見ると、なんと、コウライウグイス！こんなところにいるとは驚いた。野鳥の会の人に聞くと、水元公園で観察されたことがあるとのこと。これまでも、これ以降もコウライウグイスの姿を見ることはなく、迷鳥なのだろうか？</li> </ul>
42	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湿地帯はほとんどないが、六実三丁目の鎌ヶ谷市との境近くの畑と林近くの細い水路でアオサギを観察することができた。</li> </ul>
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年も渡りの途中と思われる夏鳥を確認した。例年確認されていたセンダイムシクイは観察できなかった。</li> <li>・6月27日：千葉大でウグイスの囀りを聴いた。昨年は4月～6月に継続して囀りが聴かれたが、今年は4月初旬以降は聴かれず、6月もこの日のみだった。</li> <li>・9月7日：柿木台公園の池にダイサギが降り立った。ここでダイサギを見るのは初めて。</li> </ul>
55	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カラスの群れは相変わらず飛び交っているが、道路をあるいているだけでは鳥の姿を発見するのはむずかしい。記録をまとめてもなんだか寂しい気分になる。建物の5階から眺めていると鳥の声は聞こえるのでそれで識別できるようになればと思うがなかなか難しい。国分川方面、八柱霊園内などでは鳥観察をしているが、55地区からははずれるし。</li> </ul>
59	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ここ数年、毎年春の渡りの時期に神明神社でキビタキを観察していたが、今年を確認できなかった。2月に隣接地の大木が伐採され藪が刈り払われた影響かもしれない。</li> <li>・神明神社にハシブトガラスが営巣しており、立ち止まって周囲の鳥を観察していると頭上に2羽が来てガーガーと威嚇され、移動すると追いかけてきた。4月中旬から5月上旬まではゆっくり観察できずに困った。</li> </ul>

令和3年度調査員短信（後期）

地区	
2	<p>・坂川(横須賀小学校裏)では早朝～夕方まで餌やりの方が多くカモ類 40羽近く（鴨種類の見分けが難しく自信ないのですがヒドリガモかなあ？）オオバン 10羽観察。群れが川面から上がって護岸草地で羽を休める様子も見られました。</p>
5	<p>・モズ～10/15に5羽を今季初認、2/28に1カップルを確認。例年より数が少ない。          ・ウグイス～11/18に「五番街」で初認後は未確認が継続するも、3/2に地鳴きを確認。          ・ツグミ～11/29 1羽を今季初認。以後、3月末迄見られた。例年より飛来が遅く少なめ。          ・タゲリ～11/29 ≒25羽が旭町地区の畑に飛来するも、昨年から新松戸西小学校付近で土木工事が続き、例年の休息場には着地せず。          ・カワセミ～2/2 坂川放水路・旭町排水樋門（新松戸西小・南側）の柵に♂・♀が鎮座しているのを今季初認。前日に行われた野焼き（農業用水路）の匂いが立ち込める中、行き場を失っての事と思われる。放水路で見られるのは実に数年ぶり！          ・シロハラ・アカハラ・ホオジロ・マガモ～今季は未確認。シロハラ・アカハラの5区内未確認は初？          ・ツバメ～例年より飛来が遅く、3/末迄未確認。</p>
6	<p>・マンションのベランダ設置のエアコン室外機にスズメ営巣、数羽羽化、巣立ち確認しました。</p>
7	<p>・ツグミ～12/14 溜脇公園にて1羽を今季初認。今季は飛来数が少なく出会える機会は少なかった。          ・シメ・シロハラ～12/20 東漸寺境内&amp;関さんの森付近の農家裏にて今季初認。例年よりも遅い？以後、毎回の様に確認できたが3/21以降は未確認。          ・ムクドリ～例年は10月初旬に新坂川・駅前大橋方面にて数百羽の群飛が見られたが、本年は群飛を未確認。          ・ツバメ～例年なら3月末には見られるが本年は未確認。          ・エゾビタキ・カケス・ホオジロ・マヒワ・ヒガラ・コゲラ・コガモをはじめ、オオタカ・チョウゲンボウなどの猛禽類も今季は未確認。          ・ルリタテハ～3/2 東漸寺本堂付近にて1羽が飛来。春到来を告げるような綺麗な飛翔を今季初見。          ・ミシシッピーアカミミガメ～2月下旬から 新坂川流域にて「甲羅干し」が見られる。          ・アブラコウモリ～今季は未確認。</p>
11	<p>・坂川には、オオバンやカルガモとカワウが定番です。コガモは今年も来てくれましたが、その他の渡り鳥は確認できませんでした。（5区の領域ですが、坂川放水路には来ています。）冬季も水田や用水路に水を入れてくれると、野鳥が多く出現すると思いますが、残念です。油やヘドロが溜まっています。</p>

22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月20日：江戸川の上を上流から下流方向へショウドウツバメ7～8羽が飛んでいった。渡りの途中と思われた。</li> </ul>
31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クリーンセンター公園横の調整池で、常にカワセミとカモ(カルガモ、マガモ)がみられ、他にも何度かオオタカとチョウゲンボウが見られました。去年と一昨年に見られたイソヒヨドリが今年は見られませんでした。</li> </ul>
32	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3月10日：中州にコチドリの姿があった。以前は32地区で繁殖していたが、ここ数年は姿は見ても繁殖はしていない。</li> <li>・11月以降ベニマシコの姿がコンスタントに観察された。そのため、特に年明けからは野鳥観察・撮影の人が多かった。</li> </ul>
36	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オオタカがカラスを捕え、住んでいるマンションの駐車場へ運び込んでいるのを見つけた時は、大変驚きました。毎年観察出来たモズとウグイスを、今回は調査無しとなり、残念です。</li> </ul>
51	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月10日：柿木台公園の池でカワセミを見た。ここでカワセミを見るのは珍しい。</li> <li>・千葉大の樹林で1月12日にルリビタキのみ、2月27日に♀を見た。今まで51地区でルリビタキを見たことはなかった。</li> <li>・3月31日：千葉大の樹林の高い梢にツミ♀がとまっていた。以前、戸定歴史公園でツミが営巣したことがあると聞いたが、今後どうなるだろうか？</li> </ul>
54	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国分川の一部で浚渫工事が行われ、水辺が広くなり、セグロセキレイやタシギが観察されるようになりました。しかしながら、数か所で周囲の雑木林が取り払われ、産業廃棄物置き場が増えたせいでしょうか、ウグイスの声が聞けたのは、1回限りでした。</li> </ul>
59	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1月24日：神明神社のそばを歩いていると、オオタカの若鳥が飛んで来て樹の枝にとまった。早速ハシブトガラスが2羽カーカーと鳴きながらやってきてオオタカのそば20m位の枝にとまり、しばらく鳴いていたが、オオタカは動ぜず、そのうちカラスは鳴きやみ飛び去った。神明神社でオオタカを見たのは初めだった。</li> </ul>

## おわりに

平成 11 年度から始まった「生きもの調査」は、平成 17 年度から「地域環境調査」と形を変えて、平成 21 年度まで 5 年間の調査を行い、平成 23 年度より調査を再開し、令和 3 年度も報告書としてまとめることができました。

ご協力をいただいた調査員の皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。

この調査は市民の皆さんによるボランティアで実施しており、調査員の知識や経験、また各調査地区における調査員の人数や、調査頻度、調査場所、時間帯、天候等によっても観察結果に差が生じると考えられます。

そのため、今回報告された結果において、一概に報告の少ない地域が必ずしも野鳥が少ないとは判断できず、前後の調査結果も踏まえて傾向を把握していく必要があると思われます。少なくとも今回報告のあった野鳥が存在する、若しくはそれ以上の野鳥が存在する可能性は否定できないと考えられます。

松戸市環境計画で掲げる「めざすまちの姿」の創造は、調査員や環境ボランティアの方々にとどまらず、そこに住む市民一人ひとりが地域の環境について知り、関心を高め、自ら行動することから始まります。

この調査が多少なりとも足掛かりとなれば幸いです。

※調査結果は、後日、松戸市のホームページからもご覧いただけます。

市ホームページのトップページから【ホーム ⇒ くらし ⇒ 環境 ⇒ 松戸市地域環境調査 ⇒ 地域環境調査結果】と進んでください。

アドレス：

[https://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/kankyou/shizenkankyo/tiiki-tyouasa/chiikikankyou\\_kekka.html](https://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/kankyou/shizenkankyo/tiiki-tyouasa/chiikikankyou_kekka.html)



フクロウ  
村松調査員撮影



オオタカ  
小松調査員撮影



---

## 松戸市地域環境調査報告書

令和4年9月

---

○発行 松戸市

〒271-8588

松戸市根本 387 番地の 5

TEL : 047-366-1111

URL : <http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

---

○編集 松戸市 環境部 環境政策課

TEL : 047-366-7089

FAX : 047-366-8114

---

イラスト提供 : 公益財団法人 日本鳥類保護連盟

令和4年9月 日発行

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針の判断の基準を満たす用紙を使用しています。

総合評価値 80

古紙パルプ配合率 : 100%

白色度 : 82%

